

# 28年5月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年5月1日～ 28年5月10日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
5月分の回答企業数は9社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### 素材生産動向

品目		26/5月	26/6月	26/7月
伐採動向	スギ	△ 10.0	△ 20.0	0.0
	ヒノキ	△ 20.0	△ 10.0	△ 10.0
	カラマツ	△ 83.3	△ 83.3	△ 83.3
	エゾ・トド	△ 16.7	16.7	33.3
出荷・販売動向	スギ	10.0	△ 30.0	△ 10.0
	ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 66.7	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 50.0	50.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	12.5	0.0	25.0
	ヒノキ	△ 16.7	0.0	0.0
	カラマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	エゾ・トド	△ 83.3	△ 66.7	50.0

・スギの伐採は5月、6月の減少が、7月は横ばい。  
・ヒノキは3カ月連続して減少。カラマツは3カ月連続して大きく減少。エゾ・トドは5月の減少が、6月、7月は増加。

・スギの出荷は5月の増加が、6月、7月は減少。ヒノキ及びカラマツは3カ月連続して減少。エゾ・トドは5月の減少が、6月は増加、7月は横ばい。

・スギの立木在庫は5月の増加が、6月は横ばい、7月は再び増加。  
・ヒノキは5月の減少が、6月、7月は横ばい。カラマツは3カ月連続して減少。エゾ・トドは5月、6月の減少から7月は増加に。

### モニターからのコメント

#### (伐採動向)

・トドマツ間伐は、連休で休みがあるが伐採は横ばい（北海道）。  
・主伐に入ったのでやや伐採増。林道の状況もよくなるので運材がやや増。立木販売物件の間伐が終了するので在庫はやや減少（北海道）。  
・伐採動向は来月度の請負入札結果による（間伐）（北海道）。

#### (出材・販売動向)

・5月末まで融雪期対策で通行止めのため、6月は増加する。各工場、受入れ制限なし（北海道）。  
・出材調整あり（北海道）。  
・調整なし（東北）。  
・国有林の生産請負に入るため、7～10月は出材が減少する（関東）。  
・6月は梅雨のため出材を控える（九州）。

#### (手持ち立木在庫)

・手持ち在庫を伐採したので、国有林立木公売で購入する予定（北海道）。  
・手持ち立木は多少あるが、国有林請負事業に入るため伐採休止（東北）。